

論文審査結果の要旨

専攻 入学年度	資源環境科学 専攻 2021年度(4月)入学	氏名	Hejazi Ziaurrahman
論文題目	Vegetative propagation of persimmon by cutting, grafting, and micropropagation (挿し木、接ぎ木、およびマイクロプロパゲーションによるカキの栄養繁殖に関する研究)		
審査委員 職名及び氏名	主査	教授	鉄村 琢哉
	副査	教授	圖師 一文
	副査	教授	國武 久登
	副査	教授	森田 千尋
	副査	准教授	本勝 千歳
審査結果の要旨(800字以内)			
<p>アフガニスタンでは近年、カキの栽培が広がっている。適切な人工脱渋方法の開発や販売システムの改善など、アフガニスタンのカキ産業には多くの問題があるが、本研究では栄養繁殖に関わる問題の解決を目的とした実験を行った。アフガニスタンにおける唯一のカキの栄養繁殖方法は接ぎ木であるが、現地では、泥とポリエチレンフィルムによる被覆を行うため時間と労力がかかっている。そこで、接ぎ木用合成樹脂テープなどを使用した5つの処理を行い、カキ複数品種を接ぎ木した。合成樹脂テープによる巻き付けは、簡便である上、常に最も高い接ぎ木成功率を示し、従来の泥による方法を含む他の接ぎ木処理よりも優れていることがわかった。次に、わい性台木'MKR1'の挿し木繁殖実験を行った。諸条件の検討を行った結果、6月下旬に挿し木すると発根率および生存率ともに高く、パーライト用土への挿し木は発根率を低下させることがわかった。灌水方法にはミストとTPTシステムを使用した結果に差はなかった。後者は電気を使わず、使用水量も少ないため、インフラの整っていない地域でも利用出来る。これらの実験にはプラスチックポットを使用した。近年のプラスチック汚染を考慮し、ピート材料としたディスプレイポットを使用して挿し木を行った。その結果、ピートペレットに挿し木する方法でも、'MKR1'の挿し穂は十分発根することがわかった。さらに、簡便な挿し木方法についてもその可能性を探った。一方、マイクロプロパゲーションによる'MKR1'の効率的な栄養繁殖方法の開発も行った。マイクロ挿し穂を高濃度のIBAに瞬間浸漬する従来の発根処理法ではなく、発根培地に低濃度添加し、植え付け10日後、すなわち10日間の暗黒処理後にピートペレットに移植し、生育させる方法の方が、高発根率を維持したまま、マイクロ挿し穂が健全に成長し、鉢上げがスムーズに行えることがわかった。</p> <p>公聴会での発表および質疑応答も適切であり、本審査委員会は論文審査および最終試験に合格したと判定する。</p>			

(注1) 論文題目が外国語の場合は日本語を併記すること。

(注2) 最後に「公聴会での発表および質疑応答も適切であり、本審査委員会は論文審査および最終試験に合格したと判定する」という文言を統一して記載すること。

(注3) 論文博士の場合は、「専攻、入学年度」の欄には審査を受ける専攻のみを記入し、入学年度の記入は不要とする。